

(様式第3号)

### 平成26年度調査研究中間報告書

|                      |  |
|----------------------|--|
| 調査研究<br>課 題          | 二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析  |
| 計画期間                 | 平成26年度～30年度 5年間  |
| 調査研究<br>計 画          | <ul style="list-style-type: none"><li>・二枚貝が保有するノロウイルス以外の下痢症ウイルスのリアルタイムPCR検査法を確立し、大洗や鹿島灘産の岩牡蠣等が保有する下痢症ウイルスの実態を把握する。</li><li>・二枚貝が保有する下痢症ウイルスの遺伝子解析を行い、食中毒の原因ウイルスとの関連を解析する。</li><li>・二枚貝における下痢症ウイルスの実用的（迅速性、正確性、簡便性等）検査法を検討する。</li></ul>   |
| 進歩状況                 | <ul style="list-style-type: none"><li>・二枚貝（岩牡蠣、ハマグリ、ホッキ貝）におけるノロウイルス、サポウイルス、アストロウイルス、A群・C群ロタウイルス、アデノウイルス、エンテロウイルスの下痢症ウイルスのリアルタイムPCR検査法を確立した。</li><li>・平成26年度は、当所予定していた大洗や鹿島灘産の岩牡蠣、ハマグリ、ホッキ貝に加え、広島県産及び宮城県産の真牡蠣、那珂川河口付近の岩牡蠣計299検体の下痢症ウイルスの検査を実施した。</li></ul>  |
| これまでの<br>成果の<br>概 要  | <ul style="list-style-type: none"><li>・6月～12月に採取した大洗や鹿島灘産の岩牡蠣、ハマグリ、ホッキ貝（226検体）から、ノロウイルスG2が2件検出された。</li><li>・12月にスーパーで購入した広島県産及び宮城県産の真牡蠣（13検体）からノロウイルスG2が1件、サポウイルスが2件検出された。</li><li>・8月～3月に那珂川の河口付近に停留した岩牡蠣（60検体）のうち冬季にサンプリングした岩牡蠣からノロウイルスG1が9件、G2が26件、サポウイルスが10件、アストロウイルスが10件、アデノウイルスが5件検出された。</li></ul> |
| 今後の<br>計画・課題<br>対応方法 | <ul style="list-style-type: none"><li>・茨城県産の二枚貝が保有する下痢症ウイルスの実態を把握することにより、食品衛生の確保等に寄与する。</li><li>・二枚貝が保有している下痢症ウイルスと県内で発生した食中毒や感染性胃腸炎の原因ウイルスのデータを蓄積し解析することにより、感染リスクや発症リスクを明らかにすることができる。</li></ul>   |

※ 研究成果等の資料があれば添付すること。

## 中間評価結果報告書

平成 27 年 9 月 16 日

| 調査研究課題        |                                  | 二枚貝が保有する下痢症ウイルスの把握と疫学解析   |     |
|---------------|----------------------------------|---|-----|
| 評価項目          | 評 価                              | 意 見   | 備 考 |
| ①必要性          | 4, 5, 4, 5, 5, 5, 4<br>平均評価点：4.6 | 外部委員<br>・社会情勢，ニーズともますます必要性は増加しており，計画見直しは不必要と思われる。<br>・県内の食中毒や感染症との関係解明や予防への必要性がある。  |     |
| ②進捗状況         | 4, 5, 4, 5, 5, 3, 4<br>平均評価点：4.3 | 外部委員<br>・計画に沿って研究が進んでいる。また，予算内の実績で（-20万円程度）研究が進められた。計画通りの結果を得ている。<br>・二枚貝が保有する下痢症ウイルスのリアルタイムPCR検査法が確立されたことは多いに評価できる。<br>・下痢症ウイルスの検査条件を検討して実試料に適用できた点は予定通りに成果がでている。<br>内部委員<br>・今後のコスト削減に期待する。     |     |
| ③計画の妥当性       | 3, 5, 4, 5, 5, 5, 4<br>平均評価点：4.4 | 外部委員<br>・26年度に予定以外にも他県のサンプルについても検査ができ，下痢症ウイルスのリアルタイムPCR検査法を確立したので，計画は妥当である。<br>・那珂川河口付近に岩牡蠣を係留するとウイルスの検出頻度が増加するが，その原因を早急に明らかにしてほしい。公衆衛生上も重大な問題が含まれている。<br>・実態把握とデータ蓄積は大切であるが，汚染のメカニズム検討を是非進めて欲しい。 |     |
| ④目標の達成及び活用可能性 | 3, 5, 4, 5, 5, 4, 4<br>平均評価点：4.3 | 外部委員<br>・このように着実な考え方をもとに実績成果を得ているので，目的は達成し  |     |

|          |   |   |   |   |   |  |
|----------|---|---|---|---|---|--|
|          |   | <p>、有効活用が期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上述のように、本研究により公衆衛生上重要な問題が含まれていることが明らかにされた。今後の研究成果を期待したい。</li> <li>・最終的に予防や注意情報発信につながると期待できる。</li> </ul> <p>内部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より分かりやすい県民への還元を期待する。</li> </ul>  |   |   |   |  |
| ⑤総合評価    | <p>4, 5, 4, 5, 5, 4, 4</p> <p>平均評価点：4.4</p>                                       | <p>外部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・那珂川に係留した岩牡蠣でのウイルスの検出の原因究明を希望する。</li> <li>・岩牡蠣を、河口に係留することにより、下痢症ウイルスの検出頻度が増加することを明らかにした点は、大いに評価できる。</li> <li>・食の安全を確保するために大切なテーマで推進してほしい。</li> </ul> <p>内部委員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水中ウイルス量、ウイルス株との関連に大変興味があり、先行研究を含め教えて頂ければ幸いです。</li> </ul>  |   |   |   |  |
| ⑥継続実施の評価 | <p>A：7人</p> <p>B：</p> <p>C：</p> <p>A：実施相当</p> <p>B：計画を見直し実施相当</p> <p>C：実施不可相当</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p style="text-align: center;">最終評価</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">A</td> <td style="width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">B</td> <td style="width: 30px; height: 30px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">C</td> </tr> </table> </div> <p>評価の理由や助言等<br/>(評価「B」の場合は見直しを要する事項)</p> | A | B | C |  |
| A        | B   | C   |   |   |   |  |

評価点 1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好